

カンディンスキー 世界は鳴りひびく —日本のコレクションでたどる画業と反響—



ワシリー・カンディンスキー
《支え無し》
1923年
ポーラ美術館

日頃から、宮城県美術館の活動に御協力いただきまして、誠にありがとうございます。

当館では、2026年9月12日（土曜日）から、特別展「カンディンスキー 世界は鳴りひびく —日本のコレクションでたどる画業と反響—」を開催いたします。ぜひ貴メディアにて取り上げ、報道・周知していただきたくお願い申し上げます。

なお広報用画像の御使用や招待券プレゼントを希望される場合は、別紙に掲載する専用フォームよりお申し込みください。

報道公開 2026年9月12日（土曜日）午前8時40分～

- ※ 当日は午前8時40分から特別展会場の撮影が可能です。
午前9時から開会式を開催します。
（事前申込は不要です。正面玄関から入館してください。）

展覧会名 カンディンスキー 世界は鳴りひびく —日本のコレクションでたどる画業と反響—

会 期 2026年9月12日（土曜日）—10月28日（水曜日）

開館時間 午前9時30分—午後5時（発券は午後4時30分まで）

休 館 日 月曜日（9月21日、10月12日は開館）、9月24日（木曜日）、10月13日（火曜日）

主 催 宮城県美術館、河北新報社、カンディンスキー展実行委員会

後 援 仙台市教育委員会、NHK 仙台放送局、tbc 東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、khb 東日本放送、エフエム仙台

助 成 一般財団法人地域創造

観覧料 一般 1,300 円 (1,100 円)、学生 1,100 円 (900 円)、小中高生 650 円 (500 円)

※ () 内は 20 名以上の団体料金

展覧会概要

抽象絵画を切り拓いた画家、ワシリー・カンディンスキー (1866-1944)、彼が芸術の本質と考えた〈内なる響き〉は、抽象表現の成立を理論づけると共に、異なる芸術の総合を可能にする、豊かな拡張性を秘めた概念でした。

その思想は日本にも早くから受容され、作品も徐々にもたらされました。本展覧会は、日本各地に収蔵される作品により、ミュンヘンでの模索から「青騎士」、ロシアへの帰郷、バウハウスでの指導、そしてパリでの円熟に至る画家の足跡をたどるものです。また日本人とカンディンスキーの出会いにも焦点を当てます。

難解に思われる彼の絵画の根底には、ロマンティックな感情の動き、神秘的な存在への憧憬、そして形を描き、色を塗ることの純粋な喜びがあります。画家が〈精神的なもの〉を託したコンポジションの前で五感を開き、色と形の織りなす交響をぜひ体験してください。

関連イベント

■講演会「カンディンスキー 世界は鳴りひびく」

講師 松本透氏 (アーティゾン美術館 副館長)

日時 9 月 21 日 (月曜日・祝) 午後 2 時～ (90 分程度、午後 1 時 30 分開場)

会場 佐藤忠良記念館地階アート・ホール

定員 100 名 (先着順、聴講無料)

■学芸員による展示解説

日時 9 月 20 日 (日曜日)、10 月 4 日 (日曜日)、10 月 18 日 (日曜日)

いずれも午後 2 時～ (1 時間程度、午後 1 時 30 分開場)

会場 佐藤忠良記念館地階アート・ホール

定員 100 名 (先着順、聴講無料)

■まちなか美術講座「カンディンスキーの衝撃 日本人が受け取ったもの」

講師 小檜山祐幹 (当館学芸員)

日時 10 月 17 日 (土曜日) 午後 1 時 30 分～ (90 分程度)

会場 東北工業大学地域連携センター「テクロビ」エスキースルーム

定員 50 名 (事前申込制、先着順、聴講無料)

※ 当館ウェブサイトからリンクする申込フォームからお申し込みください。

■創作室プログラム「トライ・デー俳句でコンポジション」

本展を鑑賞し、お互いの見方や感じ方を組み合わせて俳句をつくります。

日時 9 月 27 日 (日曜日) ①午前 10 時～ ②午後 2 時～ 各 90 分程度

会場 創作室 1 および展示室

定員 対象 16 歳以上 各回 6 人（要事前申込、抽選）参加費無料、要本展観覧券
※ 当館ウェブサイト内の参加申込フォームからお申し込みください。

展覧会の見どころ

1. 国内で 24 年ぶりの大規模回顧展

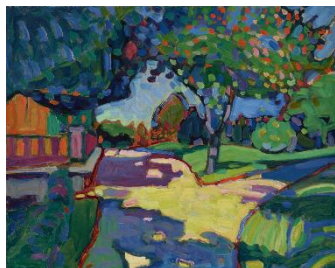
カンディンスキーは誰もが認める重要な画家ですが、国内でまとまった数の作品を見られる機会は限られていました。本展覧会は、大規模な回顧展としては 2002 年の「カンディンスキー展」（東京国立近代美術館ほか 2 会場）、抽象表現に到達する以前の初期作品から、晩年のパリ時代の作品までを網羅した展覧会としては 1987 年の「カンディンスキー展」（東京国立近代美術館ほか 1 会場）以来となります。また、1981 年の開館以来、カンディンスキーをコレクションの軸に据えてきた宮城県美術館にとっては、開館 45 年目にして初の待望のカンディンスキー展です。



左：《商人たちの到着》 1905 年
宮城県美術館
右：《全体》 1940 年
東京国立近代美術館

2. 国内所蔵のカンディンスキー作品を一挙公開

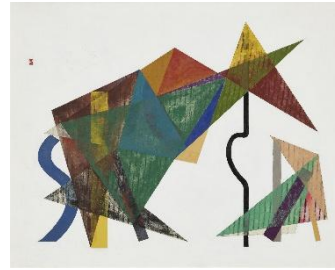
本展覧会の出品作は、すべて国内の美術館・個人が所蔵する作品です。明治末期から近年に至るまで、日本にはカンディンスキーの作品が少しずつもたらされ、今日ではそれらによって、カンディンスキーの 40 年以上に渡る制作の歩みのある程度概観することができるまでになりました。全国に点在する作品を一堂に集め、カンディンスキーの絵画の豊かな変遷の中で、それぞれの作品を新たな光の下で鑑賞する絶好の機会です。



左：《3本の菩提樹》 1908 年 石橋財団アーティゾン美術館
中央：《横切る赤》 1931 年 宇都宮美術館
右：《二つの黒》 1941 年 鹿児島市立美術館

3. 日本人とカンディンスキーの出会いに迫る

日本人はカンディンスキーとどのように出会い、何を受け取ったのでしょうか。抽象絵画の扉を開くその美術理論は、1910年代にほぼリアルタイムにもたらされ、日本の美術界に衝撃をもたらしました。その後、ドイツでカンディンスキーの作品を入手して日本にもたらし、あるいはカンディンスキー本人と直接顔を合わせる日本人が現れます。本展覧会では、日本人とカンディンスキーの関係性に注目した一章を設け、彼から刺激を受けたと思われる日本の作家たちについて紹介します。



左：《尖端》1920年 公益財団法人大原芸術財団 大原美術館

中央：萬鉄五郎《心象風景》1912-13年頃 萬鉄五郎記念美術館

右：山岡良文《シュパンヌク》1938年 京都国立近代美術館

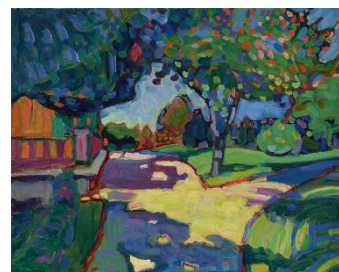
広報用画像 ①～⑩はワシリー・カンディンスキー作



①《商人たちの到着》1905年
宮城県美術館



②《鏡》1907年
愛知県美術館



③《3本の菩提樹》1908年
石橋財団アーティゾン美術館



④《E.R.キャンベルのための壁画 No.4》の習作
(カーニバル・冬) 1914年
宮城県美術館



⑤《尖端》1920年
公益財団法人大原芸術財団 大原美術館



⑥ 《支え無し》 1923 年
ポーラ美術館



⑦ 《横切る赤》 1931 年
宇都宮美術館



⑧ 《生き生きとした白》 1934 年
愛媛県美術館



⑨ 《全体》 1940 年
東京国立近代美術館



⑩ 《二つの黒》 1941 年
鹿児島市立美術館



⑪ 萬鉄五郎 《心象風景》 1912-13 年頃
萬鉄五郎記念美術館



⑫ 山岡良文 《シュパンヌク》 1938 年
京都国立近代美術館

お問い合わせ

〒980-0861 宮城県仙台市青葉区川内元支倉 34-1 宮城県美術館 担当：小檜山

電話 022-221-2111 FAX 022-221-2115

HP <https://www.pref.miyagi.jp/site/mmoa/>



https://x.com/miyagi_bijutu